

第5回 南三陸町震災復興計画推進会議

と き 平成26年1月27日(月)
18:00~20:00

ところ 南三陸町志津川保健センター
2階会議室

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 会 議

(1) 会議の目的・進め方に関する説明

(2) 「魅力の活用方法の具体化」についての話し合い・発表

(3) とりまとめ

4 事務連絡

5 閉 会

(資料目次)

- ・第4回推進会議結果のまとめ 1ページ
- ・第5回推進会議以降のテーマと進め方 8ページ

第6回 復興計画推進会議の予定：

平成26年2月28日(金) 18:00~20:00

南三陸町役場 2階大会議室

第7回 復興計画推進会議の予定：

平成26年3月26日(水) 18:00~20:00

南三陸町志津川保健センター

1.第4回推進会議結果のまとめ

12月16日(月)に行われた第4回南三陸町復興計画推進会議のグループ討議結果をご報告します。今回は、グループB、グループA、グループCの順に発表がありました。

1. 各グループの討議結果

1) グループBの発表内容(要旨)

1. 南三陸キッズニア

- ・ 南三陸の子供たちにもっと職業観をもってほしい。
- ・ 小学生に魅力は何ですかと聞くと海と答えが返ってくるが、実際に海で漁をした訳でもなく、漁師さんを親に持つ子も限られ、実体験はほとんどない。
- ・ キッズニアと言うのは東京にあり、消防士のかっこうをしたり、いろんな疑似体験ができる場所だが、南三陸の資源を生かした体験を行ったらどうかという意見があった。
- ・ 入谷地区の山、里、ほかの地区の海の資源を活かした体験を子供時代に経験すると、仮に外に出ても南三陸でいい体験ができると戻ってくるし、交流にもつながる。
- ・ そこで、子供の体験ができる場面をつくろうという意見があった。

2. 南三陸で健康づくり(防潮堤などでのグランドゴルフ)

- ・ 南三陸では、高く、幅も大きい堤防が出来る。これを逆手にとり、堤防斜面を使ったグランドゴルフ場を作り、ゴルフをしてもらうとともに再生された町を見て頂く。
- ・ 大きなホテルの近くで適した場所がありそうなので、グランドゴルフ場で健康づくりをして、シーフードバーベキューを食べ、ホテルに泊まってもらうことを売り出す。

3. ツールド南三陸

- ・ 町では、前に地区ごとの運動会などのイベントが盛んで、地域のつながり、いろんな交わりができたということでもた復活させていきたい。
- ・ マラソンやツールド〇〇とかの自転車レースのイベントを地域イベントとしてやりながら、沿道で地元の食などを提供して地域おこしをする例がある。
- ・ 田東山を自転車で登るイベントがあるが、加えて三輪車で登るイベントなども可能性がある。

4. お客が作る料理コンテスト

- ・ 南三陸の海の物、山の物、四季折々の食材を使ったコンテストを企画したい。
- ・ おらが町の名物、A級グルメ、B級グルメなどあるが、町内の食材を提供して、町外の人に料理しに来てもらう、そういうコンテストをして町に来てもらう。
- ・ 町外の人が作った物を町内の方が食してこれはおいしいとか、これは是非南三陸の名物にしたいとか、そういうアイデアをもらうような企画も良いと思う。
- ・ 町に良い食材があるので、こういうコンテストなり、イベントが企画出来る。
- ・ 町の名物のタコと隣の登米市とコラボレーションをして、食材コンテスト、姉妹都市と連携した名物コラボ食材コンテストもできる。

○魅力の活用シート（まとめ）

グループ名：B

| 魅力 | 事業名 (愛称) | どのようにする（活用の方法） | 皆さんが自ら行うこと | 町や外の力を借りたいこと |
|-----------|------------------------|---|----------------------------------|-------------------|
| 海・山の魅力 | 南三陸 キッザニア | <ul style="list-style-type: none"> ・子供達が漁業など職業体験できる場所が少ないので増やす ・小学校間の親子体験交流を行い海・山の南三陸らしさを味わう（入谷地区～海岸地区） | 職業体験への協力 | 学校間、地区間の交流窓口 |
| (防潮堤を逆手に) | 南三陸で健康づくり（海の隣でグランドゴルフ） | <ul style="list-style-type: none"> ・グランドゴルフ場を宿泊施設のそばにつくり、ホテルと連携してシーフードバーベキューを行う。 ・防潮堤の斜面を利用して、海の見える場所で行う ・仮設住宅の人と町外の人を呼び、グランドゴルフ大会を行う。（目標ができれば皆が元気に） | 大会の企画・運営 | グランドゴルフができる場所の確保 |
| 海・山の地形 | ツールド南三陸（サイクル・三輪車・マラソン） | <ul style="list-style-type: none"> ・町内の各地区対抗の運動会を復活させる ・全国から人が集まる田東山のマウンテンバイク大会に加え、「三輪車で登る大会」を行う。 ・町内の復興を感じるため、町内をぐるぐる回る自転車のロードレースやマラソン大会を行う。 ・コース上にモアイ像を置く | 企画・運営支援（田東山のマウンテンバイク大会は自転車組合が運営） | 各地区への呼びかけ窓口 |
| 地場食材 | 町外の人を作る料理コンテスト | <ul style="list-style-type: none"> ・四季折々で食材を使った祭りを開催する ・町内外の人が参加する料理コンテストを開催する。 ・南三陸の食材を使って町外の人に料理をしてもらうコンテストを開催する。 ・町の名物と（姉妹都市）など町外の名物を組み合わせた食のイベントをおこなう。 | 企画・運営 | 姉妹都市などへの呼び掛ける際の窓口 |

注) 青字はまとめていただいた「ふせん」に発表内容をもとに事務局で加筆しました。

2) グループAの発表内容(要旨)

1. 南三陸椿ものがたり

- ・この町にある椿文化、「昔は種を拾いその油を取って頭に付けた」と言うお母さん達の文化を再確認しながら、塩害に強い椿の植生を防災に生かすまちづくりをしたい。
- ・今後、防潮林や公園作りでたくさんの苗木が必要になってくるが、その苗木を買わずに、自分たちで今の時間を活かして育て、町に苗木が必要な時期に提供する。
- ・椿の避難路を山の方から降ろしていき、その方向に逃げれば観光の人達も助かる。
- ・高台に大きく団地を造成して山を頂くので、低地部に森を還すことも目的にしたい。
- ・私たちはまず種を集める。子供でも出来るので、子供達の役割として種を集める。
- ・仮設でお母さん達にポット苗で育ててもらおう。その時期以外はグッズ制作をして貰う。
- ・里親制度みたいに町の椿を他の町の人たちにも育ててもらい交流が生まれるとよい
- ・町にはPRと苗作り用に低地部の土地を利用させて頂きたい。
- ・子供達の生活の意味が深まるので、子供達との連携、学校との連携を図る。
- ・他の被災地で椿を中心に行っている町、たとえば伊豆大島と交流し広げていく。

2. 地名で伝える防災事業

- ・昔、「沖の須賀」と呼ばれていた浜や海だったところを埋め立てた反省がある。
- ・今回、10m盛土をして防潮堤も作る、けれどもここまでの海だったという記憶を残すという事が未来に危機意識を高めて行くことになる。
- ・地名に刻まれた津波の警告を意識的に見える形にして伝え、防災教育に生かす。(そういう歴史があったよと、お年寄りの方々から子供たちにお伝えする。)
- ・地名だけで表す防災マップみたいなものを1つ皆で作って語り継ぐ。
- ・町にはPR、配布、資料作成協力を頂きたいし、子供達が参加して自分達の町を知る。

3. 縁側で笑顔のお茶っこ

- ・今後心配されている災害公営住宅のコミュニティ再生における場の手助けとなるようお茶っこ文化を意識的に使う。
- ・お茶っこ文化はお年寄りの見守りにもなる。(今日あの人来てない、どうしたんだべね)
- ・事務局があげた‘たらすもづ’は、商品化すると本来の良さが無くなるので、あえて商品化しない。お茶っこ事業の中で助っ人として取り入れる。
- ・行政の方にお茶っこのみに参加していただき、まちづくりの情報を提供してもらい、時間を共有する。

4. 鮭的人財育成事業

- ・町を離れてもまた戻って来たくなるような原体験の場を残しながら復興したい。
- ・ネイチャーセンター(海の学校)みたいな海の事、森の事、里の事がいろいろ分かる拠点があって、そこで原体験の場を意識的に活用する。
- ・人間がたくさん増えて行けば人口流出も怖くない、という取り組みをしたい。

5. 秘伝の果報団子事業

- ・入谷・志津川では11月23日にお団子を作り、中に萩の枝とか柳の枝とかを入れる。
- ・何個かに1個入っていて、それを食べてそこに入っているとおじいちゃんに100円おこずかいをもらえる。そういう町に古く残っている文化を町づくりに楽しみのような事業として打ち出すというのもいい。

○魅力の活用シート（まとめ）

グループ名：A

| 魅力 | 事業名 (愛称) | どのようにする（活用の方法） | 皆さんが自ら行う こと | 町や外の力を 借りたいこと |
|------|---|---|--|---|
| 椿 | 南三陸椿ものがたり (ご縁椿はな咲くまちづくり事業) (椿の避難路事業) | <ul style="list-style-type: none"> 塩害に強い特性を活かして、防潮林、避難路に椿を植える。 沿岸部に椿を植えて、高台団地を作るためになくなった緑の分を自然に還す。 椿を縁にして他町と交流する。 (町民有志で進行中、これからは長崎、京都、大分、普賢岳などと協働する) | <ul style="list-style-type: none"> 種集め ポット苗作り グッズ制作 椿基金 維持・管理 特産づくり 苗畑づくり | <ul style="list-style-type: none"> PR 苗づくりの土地の提供 学校との連携 他町との交流 苗づくりの協力依頼 |
| 地名 | 地名で伝える防災事業 | <ul style="list-style-type: none"> 地名に刻まれた津波への警告を意識的に見える形にして伝え、防災教育に活かす。 (先人が残した地名が埋もれないように積極的に発信する。) 地名で表す防災マップを作る | <ul style="list-style-type: none"> 子どもと高齢者で話し合う場をつくる 紙芝居を作る 防災マップ作り 語り部活動 看板作り | <ul style="list-style-type: none"> PR 作成協力 配布協力 学校との連携 |
| 縁側 | えんがわで笑顔のお茶っこ | <ul style="list-style-type: none"> お茶っこ文化を活かしてコミュニティ再生を手助けする。 仮設集会所で行政と町民のお茶っこ会を継続的におこなひ、つなぐ場をつくる。 たらすもづをここで出す。 お年寄りの見守りに役立てる | <ul style="list-style-type: none"> まちづくりお茶会の実施 たらすもづサミットの開催 支援職員さんの故郷と文化交流 おらいのつけものサミット | <ul style="list-style-type: none"> PR 行政からの可能性に関する情報提供 |
| 鮭 | 鮭的人材育成事業 | <ul style="list-style-type: none"> 町を離れてもまた戻ってくるような人材を育てる。 海の学校づくり。 | <ul style="list-style-type: none"> ネイチャーセンターを活用して原体験の場づくり 子供たちに伝える | <ul style="list-style-type: none"> ネイチャーセンターの整備 PR 学校との連携 |
| 果報団子 | 秘伝の果報だんご事業 | <ul style="list-style-type: none"> たらすもづ、秘伝の果報団子、海の体験など、ここにしかないものを作る。 (規格品になることを避けるため、たらすもづはあえて商品化しない) | | |

注) 青字はまとめていただいた「ふせん」に発表内容をもとに事務局で加筆しました。

3) グループCの発表内容(要旨)

1. グランドゴルフ

- ・津波被害がなかった人も仮設に入っている高齢の多くの人にもグランドゴルフの愛好者だったが、今は道具を持っている一部の方が上山緑地公園でしかできない状況である。
- ・一方、南方の仮設住宅にはゴルフ場が作られて楽しんでいる。町に住んでいる愛好者はストレスがたまり、これからやりたいと思っている中年の方々も機会がない。
- ・町にグランドゴルフ場が1ヶ所でもあれば、そこを拠点に交流も深まる。
- ・町には、場所を提供していただきたい。グランドゴルフ協会の志津川、大森、中瀬町の各支部にお願いすれば、彼らは喜んで管理運営をやってくれる。
- ・場所が1つ設けられると、そこに集まって来る人達が自然に自分達の得意な料理を持ってきて、そこでお茶っこ飲みが出来る。
- ・仮設住宅の集会所でお茶っこ飲みする人達はいっぱいいるがいつも同じメンバーである。グランドゴルフを通し、町外の人も含めいろいろな交流が生まれる。

2. 運動イベントの開催

- ・町主催の運動会、野球大会、バレー大会などいっぱいあったが今は行政区がばらばらになりやらない。行政区単位でなく仮設住宅対抗でもいいので実施すべきである。
- ・PTAや地区対抗でもやったビニールバレー、ラージボール卓球が取り組みやすい。
- ・スポーツ(健康)麻雀も良い。囲碁とか将棋も良いが、麻雀は4人集まって、それぞれが自分の頭の運動、指先の運動ができるので、これを復活させると面白い。
- ・麻雀や各種のスポーツを指導したり普及させていく人が必要だという事で、専門家を呼んで講習会をしたり、研修会をしながらやっていくのがいい。

3. 漁業体験

- ・今ボランティアで海の作業をさせてもらっている人がいるが、これを1つの事業として企業研修、新人研修ができるようにするとよい。人を呼んで漁業に携わってもらう。
- ・海の生き物はこうできていて養殖はこういう手間がかかる、という事を一緒にやることからはじめ、発展させる。今からプログラムを作ってやって行く。
- ・実際にプログラムを作る人や窓口が必要になるので、観光協会や漁協青年部、歌津の海友会とうまくタイアップしながらやって行く。
- ・漁業体験、農業体験も含めて、全町で出来るようにするにはコーディネーターが必要。

4. 南三陸フィールドワーク

- ・間もなく防災庁舎が無くなるので、震災を伝える物がちょっとかけてくる。
- ・「実際に津波がここまで来た、昔はここまで海だった」という境の所をバスで巡ったり、現地で下りてそこで暮らしている人達の話聞く。(フィールドワーク)
- ・佐野前のコンビニも地区外の人達がなかなか来ないが、実際に行ってみると、話好きのおばちゃん、おんちゃん達が昔々ここはこうだったという話を教えてくれる。
- ・そういう人達との交流も大切で、歌津の端、倉内から宮方までの東浜街道は今は国道45号線の迂回路となっているが、昔はそこが本道でそこまで津波は来なかった。
- ・そのエリアを歩くことによって、我々は歴史がわかる。実際そこについて現地の人に案内してもらえれば、学べるし体感も出来る。
- ・(宮原先生のアドバイス) その拠点、拠点に小さいモアイ像を置いて、モアイの何番から何番へとスタンプラリーも出来る。住民の皆さんと相談しながらやっていきたい。

○魅力の活用シート（まとめ）

グループ名：C

| 魅力 | 事業名 (愛称) | どのようにする（活用の方法） | 皆さんが自ら行うこと | 町や外の力を借りたいこと |
|---------------------|---|--|--|---|
| 昔盛んだったゴルフ | グランドゴルフ | <ul style="list-style-type: none"> ・交流の場を作る大会を開催して、人々のつながりを回復する。 ・外で活動する機会を作る。 ・用具の貸し出しをしてだれでも参加できるようにする。 ・仮設住宅にひとつ作っても良い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コマーシャル（PR） ・口コミで広げる | <ul style="list-style-type: none"> ・グランドゴルフができる場所を作ってもらおう。（50m×30m） ・管理をグランドゴルフ協会にお願いする |
| 昔盛んだったスポーツ | (町主催) 運動イベント開催 町で遊ぶ | <ul style="list-style-type: none"> ・練習が必要で目標となるイベントにする。 ・ビニールバレー（ソフト） ・卓球 ・グランドゴルフなど ・囲碁やスポーツマーじゃんなど（手を動かすもの） | <ul style="list-style-type: none"> ・仮設住宅ごとにルール等を教える人を配置する | <ul style="list-style-type: none"> ・指導する人を外部から招き講習会をする。 ↓ ・遊ぶ人を養成する |
| 海の資源 | 志津川湾を巡るツアー！ メカブ漁の体験 ぶなの植林 カキやホタテのいかだ見学 | <ul style="list-style-type: none"> ・今のボランティアや新人研修を続けてもらう ・宿泊施設の準備が課題 ・食事もつけ足してみる | <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信が重要 ・プログラム構築（難しいか） | <ul style="list-style-type: none"> ・漁協に受け入れてもらう ・漁協や海友会（歌津漁師さんOB会）へのコーディネート、窓口を頼みたい |
| 話好きの人々 東浜街道などの歴史 | 南三陸フィールドワーク | <ul style="list-style-type: none"> ・地形、暮らし、歴史等を現地の人案内する。 ・地元の人との現地体験を提供 | <ul style="list-style-type: none"> ・拠点にマークをつける | <ul style="list-style-type: none"> ・新たな拠点は作らないが拠点は欲しい |

注) 青字はまとめていただいた「ふせん」に発表内容をもとに事務局で加筆しました。

2. 学識者委員・有識者委員の講評ととりまとめ

1) 稲葉先生

- ・グループごとに独創的な提案で面白く聞かせていただいた。
- ・「たらすもづをあえて商品化しない(グループA)」という発表があったが、ここ(南三陸町)にしかないものを置いておくと人が来るきっかけになるので良い考えと思う。
- ・これからそれぞれの事業を実現していくのは大変だが、できるだけお手伝いをしていきたい。

2) 宮原委員長

- ・自分たちでやることと町にやってもらいたいことが整理できてきてアイデアが具体になってきた。町は本日出されたアイデアについて検討をお願いします。
- ・グループBは、堤防など動かないものを逆手にとっているいろいろやろうという発想が良い。地場の食材で町外の人にもてなしてもらおうというのも逆転の発想で面白い。
- ・グループAの「椿ものがたり」は、いろいろな人が関われるので良い提案と思う。なお、椿の苗木を育てる人は「椿守」に任命するとよいし、大量に椿ができれば「椿(シャンプー)」の化粧品会社とタイアップしても良い。
- ・グループCは「体を動かす、町民同士が交流する」という提案だった。私の地元の高島町では10月に100人集まるグランドゴルフ大会があり、子供たちからおばあちゃんまで参加し商品も出るのでたいへん盛り上がっている。日本中でグランドゴルフをやっているので全国大会もできる。町には、場所の確保が可能か検討をお願いしたい。
- ・グループCの提案のフィールドワークをする際に、学びの場に小さなモアイ像を置いておくとそれとわかるし、お店にモアイ像があると話を聞ける店ということになる。
- ・まとめると、「体を動かす、交流する、一過性で終わらせない」ということがキーワードで、次回、「本当に誰がやるのか」を詰めるとともに、続ける仕組みを考えていきましょう。

3. 町からのコメント(企画課佐藤補佐)

- ・Aグループであった山を削る分を還す、という発想は同感である。
- ・本日もいただいたいろいろなアイデアを特区に載せていけるように検討したい。
- ・町は職員が足りないので、皆さん自身でやれることはできるだけやっていただきたい。
- ・グランドゴルフについては補助が出せると思うし、町内の場所を使えるように交渉したい。
- ・本日は、観光交流がテーマだったが、子育て、高台移転、まちづくりに関することなど、ご意見があれば遠慮なく町にメールをしてほしい。

2. 第5回推進会議以降のテーマと進め方

(1) 基本的な考え方

第4回推進会議では、南三陸町の魅力の活用のアイデアとして、グループごとに4～5テーマがあがりました。

第5回推進会議では、グループごとに1～2のテーマに絞り、アイデアの具体化を図ります。その後、企画書としていくための追加検討事項や他の団体や町の協力・支援が必要とされた場合の実現可能性の確認を事務局が行い、企画書骨子（案）を作ります。

第6回推進会議では、骨子（案）に加筆修正を行い、企画書骨子をまとめ完成イメージを共有します。

第7回推進会議では、第6回で作成した企画書と第4回会議であげられたアイデアを町長（副町長）に提出します。町は、この企画書を精査し可能なものから住民主体で実行できるように支援を検討するとともに、町の予算などへの反映を検討します。また、本会議の後半部分では、第8回会議以降の検討テーマ（第1回推進会議でテーマとして提案された「住環境の向上」「働く場を創る」の視点からの検討等）と進め方を確認します。

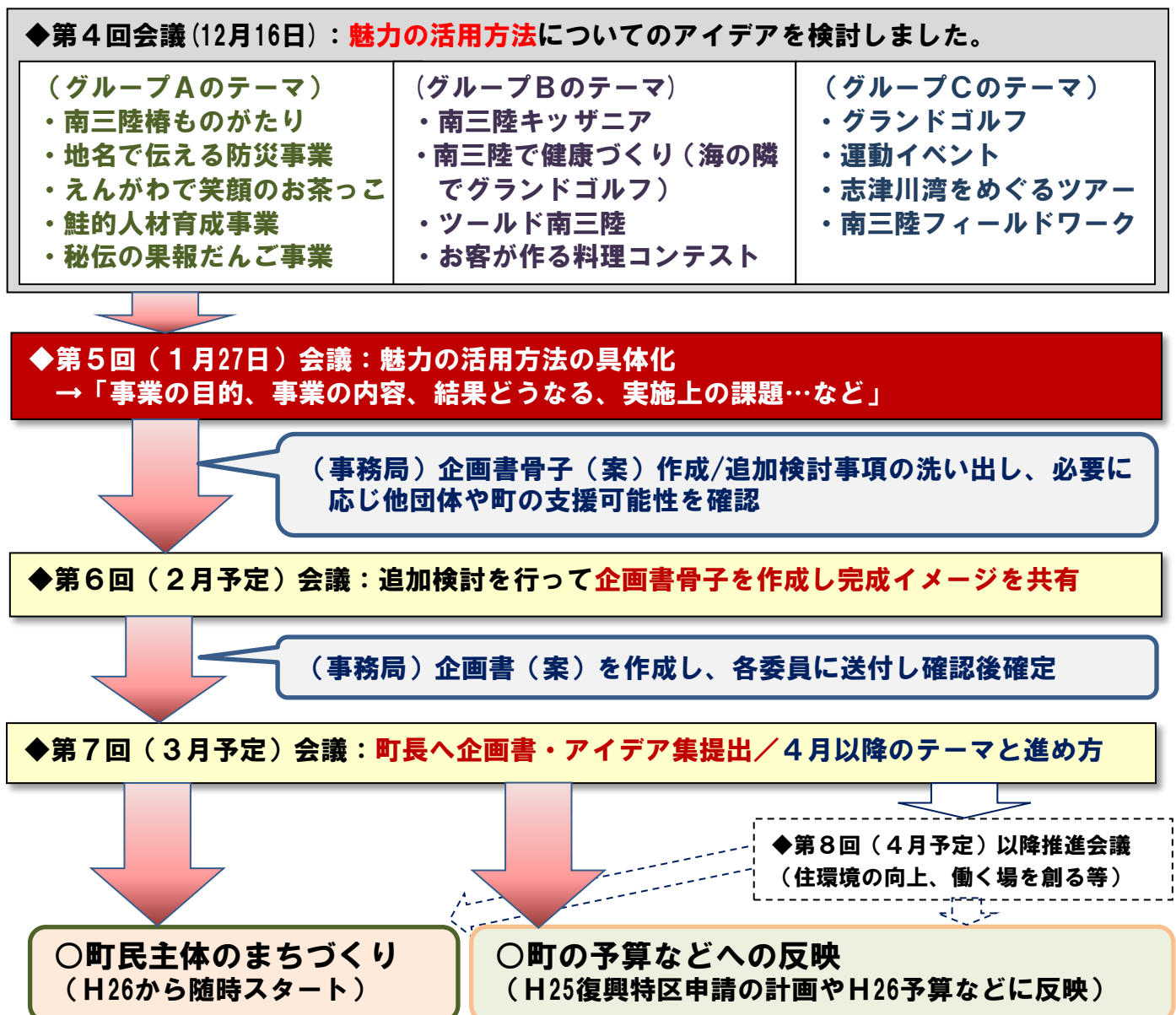


図 推進会議の検討テーマと町民主体のまちづくりへの展開イメージ

(2) 第5回推進会議の進め方

第4回推進会議のグループ発表では、それぞれ4～5テーマがあげられましたが、実現していくためには、「皆さんの思いが特に強い、町民の皆さんが参加しやすい、ここ1～2年で取り組める」などの視点から、テーマを絞りこみ、より具体化を図るとともに、『企画書』として必要な項目・内容を揃えていく必要があります。

そのため、第5回推進会議はグループごとに第4回推進会議で出されたテーマから1つ（最大2つ）を選び、企画書に揃えていく「**事業の目的、事業の内容（だれが、どこで、どのように、いくらの費用で、いつから）、結果どうなる、実施上の課題、皆さん自らが行うこと、町や外の力を借りたいこと**」などの項目の具体化を図る会議とします。

例) グループAのまとめより

| 魅力 | 事業名 (愛称) | どのようにする(活用の方法) | 皆さんが 自ら行うこと | 町や外の力を 借りたいこと |
|----|--|---|--|---|
| 椿 | 南三陸椿 ものがたり (ご縁椿 はな咲く まちづくり 事業) (椿の避難 路事業) | <ul style="list-style-type: none"> 塩害に強い特性を活かして防潮林、避難路に椿を植える 沿岸部に椿を植えて、高台団地を作るためになくなった緑の分を自然に還す 椿を縁にして他町と交流す(町民有志で進行中、これからは長崎、京都などと連携する) | <ul style="list-style-type: none"> 種集め ポット苗作り グッズ制作 椿基金 維持・管理 特産づくり 苗畑づくり | <ul style="list-style-type: none"> PR 苗づくりの土地の提供 学校との連携 他町との交流 苗づくりの協力依頼 |

【第5回推進会議で具体化していくことの例】

★「**事業の目的** (なんのため、だれのため)」を具体化

- この事業は**なんのため、だれのため**行いますか？

★「**事業の概要** (どのようにする)」を具体化

- 種やポット苗のポットはどこから手に入れ、椿は**だれが、どこで**育てますか？
- 椿グッズとして**何をつ**りますか？ **どのように**商品化していきますか。
- 費用はいくら (**概算費用**) が掛かりますか？この事業は**いつから**スタートしますか。

★「**結果どうなる**」「**実施上の課題**」の具体化

- この事業をやった**結果どうなりますか**？また、何が期待されますか？
- 費用はどう捻出しますか？育てる場所や管理する人はどうしますか？ (**課題は**)

★「**皆さんが自ら行うこと**」を具体化

- この事業は**だれが中心**となってやりますか？組織化しますか？
- 種集めを子供達にやってもらうならば父兄の合意形成はどのようにしますか？

★「**町や外の力を借りたいこと**」の具体化

- だれに、何を、だれに対してPRしてもらいたいですか？
- 学校とはどのような連携を期待していますか？

これらの項目の具体化を図り、企画書につなげます (次頁参照)

<参考例：第5回推進会議で検討する企画書につながる項目の具体化シート>

※グループAの最初の発表であげられた「南三陸椿ものがたり」のアイデアをお借りして具体化した場合の一例として、事務局が仮に作成いたしました。

| 企 画 名 | | 南三陸椿ものがたり |
|----------------|---------------|---|
| 事業の背景・思い | | <ul style="list-style-type: none"> 椿は大津波に襲われても枯れることなく見事な花を咲かせ、失意と絶望の中にあった町民を励ましました。復興のシンボルとして、多くの町民の参加を得ながら、椿を使って町外の人々との交流を深め、町の活性化を図っていききたい。 |
| 事業の目的 | なんのために | <ul style="list-style-type: none"> 高台造成で失われる森を自然に還すため（「森を街へ 街を森へ」） 塩害に強い椿の植生を防災まちづくりに活かすため 町外の人に椿のまちづくりを見て町に来たいと思ってもらうため |
| | だれのために | <ul style="list-style-type: none"> 南三陸に今住んでいる子供達を含め全町民のために 南三陸町に住んでいた元の町民に向けて 町外の（潜在的な）南三陸町の訪問者に向けて |
| 事業の内容 | だれがどこで何をどのように | <ul style="list-style-type: none"> 子供会で椿の種を拾ってもらい町民有志が無償で借りた土地で種から育て苗木になったら避難路や公園緑地などに植える。（年100本目標） 子供会や町民有志が椿を育てることを通して南三陸町の椿文化を研究し、成果を町のみんに報告し町外にも発信する。 町民有志が南三陸椿のロゴやキャラクターを作り、また、椿をモチーフにしたグッズを開発して町のお店で販売してもらう。 |
| | 概算費用 | <ul style="list-style-type: none"> 水や客土、肥料購入や寒風よけ囲い作成で約50万円/年 苗木まで育てる場所は無償で借地 |
| | いつから | <ul style="list-style-type: none"> 平成25年6月に町民有志で（仮称）南三陸椿を育てる会を立ち上げ 平成26年10月に椿の種ひろいを実施し、植付けを順次開始 以降、町の新しい避難路・公園がすべて完成するまで毎年継続 |
| 結果どうなる（期待する効果） | | <ul style="list-style-type: none"> 町の避難路や高台・市街地部に椿を中心とした緑地ができる。 椿を育てることを通して町の人々の交流や町外と交流が深まる。 地域イメージが向上し、町に来る人、町に帰る人が増える。 |
| 事業実施上の課題は？ | | <ul style="list-style-type: none"> 椿を育てる費用の捻出 椿を育てる場所の確保、植える場所の確保 椿を苗木から育て、成長まで世話をする人の確保 |
| 皆さん自らが行うこと | 中心となる人 | <ul style="list-style-type: none"> 南三陸町住民有志が事業を立上げ、企画・運営（継続した活動のために組織化することも検討） |
| | 参加者 | <ul style="list-style-type: none"> 子供会が種ひろいを実施 町内の協力家庭が苗木まで椿を育てる里親（椿守） |
| 町や外の力を借りたいこと | 町や関係組織 | <ul style="list-style-type: none"> 苗木育成用地の無償貸与と各事業での椿の活用（・椿関連情報の町公式ブログへの掲載） |
| | 町内の団体等 | <ul style="list-style-type: none"> （小学校）総合学習の題材として南三陸椿をとりあげ （各店舗）南三陸椿のロゴやキャラクターを利用 |
| | 町外の企業等 | <ul style="list-style-type: none"> 椿基金への寄付 商品などへの南三陸椿のロゴやキャラクターのプリント |

(3) 第5回推進会議以降の進め方

企画書としてとりまとめ、さらに、その企画書が活用されていくためには、第5回推進会議でテーマを絞り、その具体化を図った後も次の手順が必要と考えます。

1) 事務局による企画書骨子(案)の作成

(第5回推進会議の検討結果を受け)、事務局が企画書骨子(案)を作成します。その際に、企画書として必要な事項が網羅されているかを確認しながら、追加で検討すべき事項の洗い出しを行います。また、他団体や町の協力・支援が必要とされた場合、その実現可能性について確認します。

2) 第6回推進会議における追加検討と企画書骨子の仕上げ、完成イメージの共有

第6回推進会議では、事務局が作成した骨子(案)に加筆修正を行い、企画書骨子としてまとめ、企画書の完成イメージを共有します。

3) 事務局による企画書(案)の作成と各委員の確認作業を経ての確定作業

(第5回推進会議の検討結果を受け)、事務局が、企画書(案)(各テーマについてA4判1~2枚程度)としてまとめます。この案を該当する各グループの委員に送付し確認していただいた上で、「企画書」として確定します。

4) 第7回推進会議での企画書提出と4月以降のテーマと進め方の検討

① 企画書・アイデア集の提出

第7回推進会議の前半部分では、第6回で作成した企画書、および、第4回推進会議で出たアイデア集を半年間の検討成果と位置付け、町長(副町長)に提出します。この企画書を受け取った町は、その内容を検討・精査し、住民主体の事業化の支援や施策立案への反映方法の検討を進めます。

② 4月以降のテーマと進め方

第7回推進会議の後半部分では、第8回会議以降の会議のテーマ(第1回推進会議で今後のテーマとして提案された「住環境の向上」「働く場を創る」の視点からの検討等)と進め方を確認します。